

新しい日本、平和な日本へ ～札幌オリンピックと戦後の復興～

6年 社会科

I 実践の目指しているもの

単元を通して、我が国の「復興」と共に、「国民生活が向上したこと」と「国際社会の中で重要な役割を果たしたこと」が分かるようにする。

そのために、夏季東京オリンピックと冬季札幌オリンピックを取り上げる。終戦から19年後の1964年に東京オリンピック、27年後の1972年に札幌オリンピックを開催し、我が国は世界の国々から注目されるまでになった。「国際社会の中で重要な役割を果たしたこと」、「日本の復興を世界に伝えるきっかけになったこと」を捉えるための具体的事例として、単元の中心にこの二つの社会的事象を据える。

本時では、東京オリンピックとの比較を通して「首都東京だけではなく、地方の札幌でもオリンピックを開けるまでに復興し、国際社会の中で重要な役割を果たしたこと」が分かるようにする。そのために、まず、導入場面で札幌オリンピックは東京オリンピックから8年しか経っていないこと、札幌は地理的に東京から遠いことを子どもと確かめる。そして、「なぜ今度は冬なのか」、「短期間で2回も開く必要があったのか」という思いを膨らませ、学習問題を設定する。

授業の終盤では、オリンピックを開いたことが札幌にとって良かったのかを考える場を設定する。子どもは「道路や地下鉄、地下街など今の札幌のまちの発展につながっている」ことや「オリンピックの成功で世界から注目される都市になった」ことに気付く。現在と過去のつながりを認識することで、子どもの中に札幌に対する誇りと愛情を育むことをねらう。

単元を通して、「復興と貢献」をキーワードに札幌オリンピックについて学ぶことで、自分たちが暮らす札幌に誇りをもつきっかけになることを期待する。

II 研究の内容

1 題材名（単元名）

新しい日本、平和な日本へ

2 題材の目標（単元の目標）

- ・我が国の戦後の歩みに関心を持ち、進んで調べようとする。また、平和で民主的な国家の一員として、日本の課題やよりよい発展について意欲的に考えようとする。（関心・意欲・態度）
- ・我が国の戦後の歩みについて、学習問題や予想、学習計画を立てたり、学習問題に対する考えを適切に表現したりしている。（思考・判断・表現）
- ・地図や年表、その他の資料を活用して、必要な情報を集め、資料を読み取り、調べたことをノート等にまとめている。（技能）
- ・戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしたことを理解している。（知識・理解）

III 題材の指導計画（7時間扱い）・単元構成など

1. 学習問題をつくる 「戦後日本はどのように復興していったのだろうか」
2. 調べる 「戦後、日本ではどのような改革が行われたのだろうか」
3. 調べる 「日本はどのようにして世界の舞台に戻ったのだろうか」
4. 調べる 「なぜ、日本は1964年に東京オリンピックを開いたのだろうか」
5. 深める 「なぜ、日本は東京オリンピックの8年後に『札幌』で冬季オリンピックを開いたのだろうか」(本時)
6. まとめる 「日本の復興と発展について」
7. まとめる 「今後どのような国を目指していくべきか」について意見文を書く

IV 本時について

(1) 本時の目標

日本で東京オリンピックが行われた8年後に、札幌オリンピックを開いた意図を考える活動を通して、戦後の日本が首都東京だけではなく、地方都市札幌でもオリンピックを開けるまでに復興したことに気付き、国際社会に重要な役割を果たしたことが分かる。

(2) 本時の展開 (5/7)

前時までの子どもの姿 東京オリンピックの成功が、日本国民に自信を与えると共に、国際社会に貢献し、産業がさらに発展するきっかけとなったことを学んでいる。

1964年の東京から札幌へ

わずか8年後に

今度は冬のオリンピック・・・

東京で開いたばかりなのに・・・

なぜ、日本は東京オリンピックの8年後に「札幌」で冬季オリンピックを開いたのだろう

札幌の発展に

- ・ 高速道路の整備
- ・ 地下鉄の開業
- ・ 真駒内の発展
- ・ 地下街が誕生
- ・ 人口 100 万人

札幌市民にも自信になった
今にもつながっている

雪の降る街札幌で
自然や気候を生かす

首都でも
地方でも
五輪が開ける
日本になった

完全な復興

世界にアピール

- ・ アジア初の冬季オリンピック
- ・ 8年後にも開けるほど復興が進んだ

札幌の名が世界中に広まった
夏も冬も世界に貢献

オリンピックを開いたことは札幌にとって良かったのかな

整備した道路や地下鉄などが今の札幌の財産になっている。

人口も増え、観光客もたくさん訪れるようになった。

札幌市民にとって、誇れる街、長く住みたい街になった。

オリンピックが開かれたことは記録に残り、ずっと注目される。

当時、高校1年生で聖火ランナーを務めた高田英基さん。「札幌に貢献したい。」と札幌市役所の職員になった。

札幌でオリンピックを開くことで、札幌も発展し、世界にも日本の復興をアピールすることができると思ったんだね

○東京オリンピックからわずか8年後であること、地方の都市「札幌」で開催したという事実を提示し、問題意識を生む。

○首都でも地方でもオリンピックが開けるまでに復興したことが捉えられるように板書を構成する。

○札幌市や市民の視点でオリンピックを開いた価値を見出せるようにする。

○今とのつながりを再認識することで札幌に対する誇りと愛情を育む。

札幌のために自分も働きたいと思った。オリンピックを開催した時の市民の盛り上がりや期待感は今でも忘れられない。世界にも平和な国、復興した国、スポーツがさかんな国日本をアピールできた。

V 実践のポイント

【成果】

- 学習指導要領にもある「オリンピックの開催などの歴史的事象を取り上げ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かるようにする」というねらいが、東京と札幌の二つのオリンピックを取り上げることで、確実に達成できることが明確になった。
- このような学習機会がなければ 1972 年の札幌オリンピックについて学ぶ機会がないまま大人になってしまう可能性が高いので、札幌市民として、札幌オリンピックについて学ぶことは大切であることが確かめられた。
- オリンピックという歴史的事象を取り上げたことで、札幌の発展（インフラの整備や人口の増加、国際都市としての役割、人材の育成など）についての理解を深めることができた。
- 今の自分たちの生活と、43年前のオリンピックとのつながりを深く感じる子が多くいた。地下鉄や地下街がオリンピックの開催を機に整備されたことを知るきっかけとなった。そのことを知り、オリンピックを札幌で開いたことに対して、感謝の気持ちを抱いた子が多くいた。
- 当時聖火ランナーを務めた高田さんを取り上げたことが効果的だった。当時の市民の思いや願いに触れる機会となったり、札幌のために貢献しようとした人々の営みに共感するきっかけとなったりした。
- 本時の授業の中で、札幌のよさを捉えた発言が多かった。四季があること、自然が豊かであること、ほどよく発展していることなど、当時の札幌の様子を資料や生活経験をもとに捉えることができていた。
- 「これからは自分たちが札幌を魅力ある街にしていこう」と、札幌に対する愛情をもつ子が実践を通して増えた。

【課題】

- 子どもが考えたことの検証の場があってもよい。写真や資料などで確認できたらよかった。
- 設定した学習問題では、「なぜ札幌なのか?」「なぜ8年後なのか?」「なぜ冬なのか?」「なぜもう一度開いたのか?」など、複数の問いになっていた。どれか一つに絞り込んでもよかった。
- 聖火ランナーを務めた高田さんを、本時のどの場面でどのように取り上げるか、教材としての価値が高いので再考の余地がある。今後の実践でも取り上げたい人物である。
- 本時の学びから何を得たのか、自己認知をするための振り返りを工夫できるとよかった。例えば、「なぜ札幌で開いたのか?」について振り返る、いくつかのキーワードを使って本時の学びを確かめるなど、子どもの変容が分かるような振り返りになるとよかった。